



キュウリ

★★★

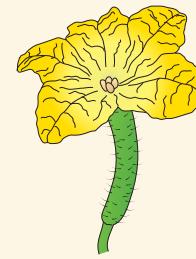
キュウリは、野菜として(1)の部分が食用とされています。1年中収かくされますが、しゅんは(2)で、暖かいとよく成長したくなる実ができます。

キュウリは(3)です。ヘチマと同じように、支柱やネットに沿ってくき(つる)が高くなります。このとき、支柱やネットに(4)をからみつかせ、からだを支えます。



+プラスワン

キュウリの花はヘチマの花とよく似ていますが、ヘチマよりひとまわり小さく、また、め花にある子ぼうにはたくさん的小さいのがあります。



ツルレイシ

★★★

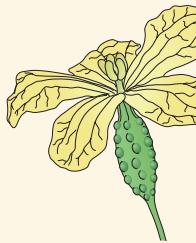
ツルレイシは「ゴーヤ」「にがうり」などともよばれ、野菜として(5)の部分が食用とされています。(6)に種子をまき、(7)に収かくします。

ツルレイシは(8)です。ヘチマと同じように、支柱やネットに沿ってくき(つる)が高くなります。このとき、支柱やネットに(9)をからみつかせ、からだを支えます。



+プラスワン

ツルレイシの花はヘチマの花と似ていますが、ヘチマよりひとまわり小さく、花びらも少し細いです。め花にある子ぼうには、特ちょう的ないのが並んでいます。

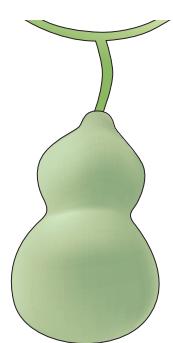


ヒヨウタン

★★★

ヒヨウタンは、実の真ん中がくびれた、特ちょう的な形の実をつける植物です(くびれていない実をつけるものもあります)。昔から、実の部分をかんそうさせ、飲み物などを入れる容器として利用されてきました。

ヒヨウタンは(10)です。春に種子が発芽すると、支柱やネットに沿ってくき(つる)が高くなり、(11)をからみつかせます。



ヒヨウタンに近いなかもユウガオもウリ科の植物で、実がかんぴょうの材料になるんじゃ。ユウガオは、アサガオと同じヒルガオ科ではないので注意するのじゃぞ。

スイカ

★★★

スイカは、野菜として(12)の部分が食用とされています(くだものとしてあつかうこともあります)。(13)に種子をまき、(14)に収かくされます。

スイカは(15)です。スイカは地面をはうようにくき(つる)をのばして畑に広がります。そのため、収かく前の時期には地面に転がっている実を見ることができます。



+プラスワン

スイカの花はヘチマの花と似ていますが、ヘチマよりひとまわり小さく、また、め花にある子ぼうは丸い形をしています。スイカの子ぼうにはうっすらと縦のしま模様も見られます。



タンポポ

★★★

タンポポは、(16)になると、黄色い花をさかせているのが、公園や道ばたなどの(17)場所で見られます。春以外の季節に花をさかせるものもあります。

タンポポには、カントウタンポポやカンサイタンポポなどのように、もともと日本に生育していたものと、セイヨウタンポポなどのように、(18)で、日本に広がったものがあります。



成長のようす

タンポポは(19)です。冬は(20)というすがたで冬ごしします。春になると、つぼみのついたくきが高くのび、花がさきます。

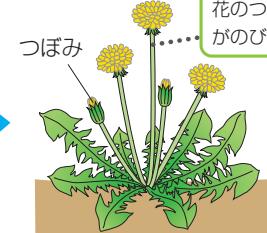
花がしほむと、花のついたくきは地面近くまでたおれます。やがて立ち上がりてさらに高くのび、種子についた(21)を広げます。

冬

ロゼット：
地面に沿うように
葉を広げたすがた



春～秋

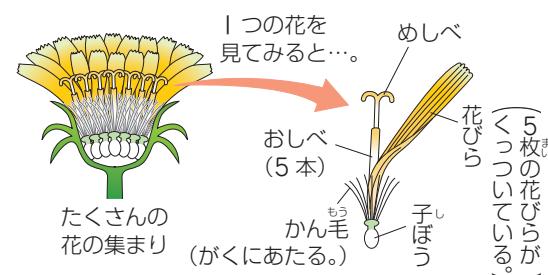
花のついたくき
がのびる。

*カントウタンポポやカンサイタンポポは、春にだけ花をさかせます。

花のつくり

タンポポの花は、小さな花(舌状花)がたくさん集まって、1つの花のようになっています。

小さな花にある花びらはくっついていて、(22)だと思います。

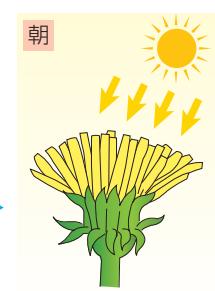
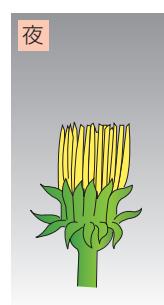


開花条件

タンポポの花の開き方は、(23)

によって調整されるといわれています。朝になり日光が当たると花が開き、夕方になり日光が当たらなくなると花が閉じます。

くもりや雨の日は日光が当たらないので、花は日中でも閉じています。



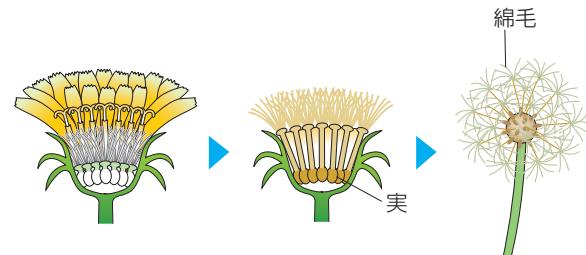
日光が当たると…。

受粉の仕方

タンポポの花は、昆虫に花粉を運んでもらう(24)です。

種子の運ばれ方

タンポポの花がかかれ、実が成熟すると綿毛は(25)遠くまで飛ばされるため、タンポポの種子は遠くまで運ばれます。



+プラスワン

タンポポのように、種子が風にのって運ばれるものほかに、種子が動物のからだにくっついて運ばれるもの、動物に実が食べられることで種子が動物のからだの中に入れて運ばれるものなどがあります。

(注意) 本ドリルでは入試問題を掲載しておりません。